

氏 名：加藤 千穂

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 141 号

学位授与年月日：2016 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）

副査 田代 順子（聖路加国際大学教授）

副査 松谷 美和子（聖路加国際大学教授）

副査 成瀬 和子（東京医科大学）

論 文 題 目：助産師に対する分娩後出血対応シミュレーションプログラムの効果：ランダム化比較試験

本研究は、臨床経験 2-3 年目の助産師を対象として e-learning とシミュレーションから構成される「分娩後出血対応シミュレーションプログラム(以下、プログラム)」を実施し、その効果をパフォーマンスと知識向上の点から検証することを目的としたランダム化比較試験である。

介入群はプログラム受講 38 人、対照群は受講なし 38 人である。プログラム実施 1 か月後のパフォーマンス評価テストでは介入群のほうが対照群と比較し有意に得点が高かった。また知識テストにおいても、介入群のほうがプログラム前後の知識得点変化量が有意に大きく、プログラム受講が分娩後出血対応のパフォーマンスと知識獲得において効果があることが示された。

本研究で行われたランダム化比較試験は研究者の問題意識をもとに、段階的に教育計画の作成及び e-learning 教材とシミュレーションプログラムの開発研究が積み上げられて行われており、審査ではこれらが総合的に評価された。分娩後出血への緊急対応は助産師の必須技術でその学習ニーズは高く、本研究は助産師の現任教育にエビデンスを提供し実践の質の向上に寄与する有用で貴重な研究であること、さらに e-learning とシミュレーションを組み合わせた教育方法の独創的な点が評価された。また論文については以下の 5 点について修正が求められた。

1. プログラム全体の構造と e-learning とシミュレーションそれぞれの到達目標を本文中にわかりやすく示すこと。また、採用した内容、時間配分などの理由を理論的に説明すること。
2. シミュレーションを再現できるよう、具体的設定について説明すること。
3. e-learning での実際の学習状況と知識獲得状況を追記すること。
4. 次の分析を追加すること。プログラム終了後 1 か月間の出血対応経験者についてその自己評価を介入群と対照群で比較。また出血対応経験者と未経験者間の自己評価の比較。
5. 以下の点について、先行文献及び教育学理論等をもとに考察を深め、結果と考察を区別して記述すること。①e-learning を取り入れたことの効果。②知識テストの正答率が低い項目とその理由。③シミュレーションにおけるデブリーフィングの効果。④低忠実度モデルと高忠実度モデルの教育効果。⑤パフォーマンステストにおけるコミュニケーションスキルの評価と今後の課題。⑥チームワークスキルの学習と評価。そして⑦より学習効果を高めるための課題。

これらの指摘事項について適切に修正されたことが確認された。以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。